

### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	白馬の生業「継続・継承」プロジェクト
事業主体 (連絡先)	白馬お宿倶楽部 北安曇郡白馬村北城2233-1番地
事業区分	地域協働の推進
事業タイプ	ソフト
総事業費	419,311円 (うち支援金: 326,000円)

#### 事業内容

今回のコロナ禍で冬の誘客に依存している形態に強い危機感があり、白馬村の生業である宿泊業者がどういふ状況であるかを把握する必要がある。同時に冬に依存するのではなく、中高年層をターゲットにした春・秋への誘客を推進する必要がある。そこで、この地に眠る歴史をひも解き誘客に繋げるべく、講師を呼んで「白馬歴史探訪」講習会を行う。この講習会には白馬高校生にも参加してもらい一緒に学ぶ。

#### 事業効果

- ① 回収率20%を目指していたが、結果的にはそれをやや下回る18% (61枚)。コロナ禍でかなり疲弊しているとの予測をしたが、返信した宿泊業者はかなり前向きで、メールアドレスの記入(任意)も29軒(47.5%)と約半数が何らかの情報やつながりを求めている。今回得た情報を軸に繋がり輪を広げていけるのではないかと。
- ② 4年度の全7回の講座で、守るべきお宝、観光客にもアピールできるこの村のお宝が「山城」ではないかという結論に至った。5年度は山城マップ作製を経てガイド養成につなげたい。
- ③ この「マンガ王国聖地巡礼ツアー」をきっかけに、ホテルのオーナーはホテルが所有するお宝を平地観光・ホテル独自の目玉としてアピールする計画。また、白馬高校生が有志を募り公園に野ざらしにされていたSLの修復に乗り出してくれた。お宝発掘とその再利用に、小さいけれども確かな一歩を踏み出した。

#### 今後の取り組み

令和5年度は第4回講座「白馬の山城」で学んだ、未確認のものまで含めると白馬村には山城がおそらく30ほどある、という驚愕の歴史背景を前面に押し出し、「山城の村 白馬」をグリーン期の里山観光の目玉に！という目標を掲げる。山城の存在と周知と保存、お宿オーナーのガイド養成と同時にこの地のお宝として受け継いでもらうべく若い世代への周知を働きかける。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた  
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【マンガ王国聖地巡礼ツアー・寄書きの前で】

#### 【目標・ねらい】

- ① 宿泊業者の実態把握
- ② 歴史講座を経てツアーガイド養成
- ③ アシスト自転車ツアーで親睦

※自己評価 【 B 】

【理由】

- ・ 地元のテレビや NHK で放送されるなど、ある程度周知できたことは評価に値する。
- ・ 若い世代へのアピールもできた。
- ・ 宿泊事業者の参加をどう促すかが今後の課題である。